磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵 税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八八五五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森 介英

低物價政策の遂行には浮動購買力の吸收をはからねばならぬ　（東朝）

閼伽井嵐

青年よ野心を持て
磐城魂とは何ぞや（上）

無軌道生

世のあらゆるものはすべて慾望の所産でないものはない。磐城人が概して氣魄に乏しく、根氣が續かないと言はれるのも磐城の氣候風土産物が永い間に磐城人を斯く寡慾無氣力に育てあげたものに違ひない。

◇

男兒志を立てゝ、郷關を出づれば功成り名遂げぬ中は再び歸らぬのが各地の常習である。又歸つたとて郷里の生活條件は往つた先よりも更に惡いのである。然るに磐城人は事志と違へば容易く歸つてくる。歸れば磐城の天地は甘く塩ぱく何とかうだつを上げさせて呉れる。そこに磐城人の人の好さがあり、磐城の天然資源の豐富さがある「人の惡いは磐城の平」などゝ言ふが眞底生活の苦勞を知らぬ人間が世間に本當の同情を持ち得ぬ半面を諷つたものであらう。

◇

明治維新は日本國中の青年を奮ひ起たした。或者は藩閥政府に抗して自由民權の筆舌を以て又或者は四海平等を背景とする資本主義的野望に炎えて而して星霜七十年大体その志す處は成し遂げられた。乍然磐城人はかゝる感激をすら持ち得なかつたのであらうか明治大正の青史を飾る何者も何人もなかつたのである。之れ果して生活の滿足による無爲か、將又敎化の欠陷のためか恐らくはその何れもであらう。

「磐城魂」及び「時間勵行」に就いての諸家の御高説を拜聽したいと存じます。なるべく九字結七十行のものにして「閼伽井嵐」係宛御投稿下さい

民間療法と藥草

野崎順

二三、たうき（當歸）（藥効）漢方の婦人要藥として産後の補血、血の道、又鎭靜、通經藥として用ひ、よく血液の循環を調へ身体を溫む彼の獨逸國メルク會社發賣の新藥オイメノールは本種を原料とした鎭靜通經藥である。（産地）山地の陰濕地に自生するも藥用植物として培養する多年生草本である。當地方では川前等に採集せられる（性狀）せり科に屬し莖葉は二三尺に達し、葉は多數の小葉に分岐し深綠色の光澤を有し、大なる羽狀複葉である莖葉共に人蔘に類する一種刺戟性の香氣を有す。（採集と利用）本種は發生後三年目の秋に開花し結實後枯死するもの故、開花の前年に於て根を掘りとり陽乾とする。前記諸症には二三匁を煎用するものなり（小生の王湯には産後の血の道並に鎭靜通經劑として配劑してある）

二四、たらのき（ソウ木）所謂「タラボウ」で秋末に根部を堀り取りその皮を陰乾とする。（藥効）慢性の胃弱に對して健胃、整腸強壯劑として煎用す、因に四五匁を土瓶に入れて一日三回空腹時に服用するものとす、村井弦齋氏の胃腸藥「タラコン」はこの根皮を原料とせるものである。

二五、たんぽぽ（蒲公英）たんぽぽの根を陰乾とし一日三匁位を煎用すれば胃カタル、便秘等に効あり。

二六、なんてん（南天燭）（藥効）白色の果實を白南天と稱し漢方で鎭咳藥として喘息、百日咳等に用ひる有効成分は「ドメスチチンメチルエーテル」で强い痲痺作用を有し咳を鎭めるものなり、小生も子供の百日咳に用ひて偶々相當の効果を認めて居る。

童歌雜記帳（一）

鈴木生

私は近頃ふとした動機から平で以前、子供達は一体どんな歌を歌つて遊んだものかと疑問をもつた。夫れで六十代の、主に女の人に伺つて、手毬歌とか、子供等が譯もなく歌つたものとか云ふのを若干集めて見た。以下一寸した説明を加へてゆくことにする。

私としても一應疑問なのだが以下、擧げるものをひつくるめて童歌と呼んで題にした譯でかやうな呼方をしてよいものかどうか、何れ調べて見たいとも考へてゐる。

歌は老人が記憶を呼び起すまで何日もかゝり改つて聞かれるとどうも出てこないらしい。それ丈に或はたりないとか、もつと續くのがあるとか、すこし違ふ點もあるかもしれないが左樣な點があつたら敎へてもらひたいものと思ふ。

こうした歌を地方的に集めて見たら、歌の流とか、地方色と云ふもの、或はその立場立場によつて面白い發見が出來るかもしれないが私としては左樣なことを調べるには荷が重すぎることだし、未々私には知らないことであるので、擧げて書く丈にします。これを讀んだ人がただ子供時代への郷愁と云つたものでも感ずるならそれで充分と思ふ。

以前平の上空を夕方になると何十羽と云ふ鴉の群が、海岸から赤井嶽に渡るのに通つたと云ふことで、そんな時歌つて大騒ぎをしたと云ふもの。

お鴉　お鴉　羽根おくれ
羽根くんねつか　通らせせね
昔は俺の友達だ
お鴉さんの
おつかあは
朝起すきで
べね、かねつけて
向ふのたんぽへ飛びだした
きんがもんが
ちんからりんと
うめいもの
たべたとなあ——

〃べね〃とは口紅のこと、〃かね〃とはおはぐろのことを云ふらしい。

詩

佐分利晃選

追憶

（平市）國玉幸子

春逝く夕べ
水枯れし小川のほとり
去にし日の追憶をたどりつゝ
あてもなく一人歩みぬ
夕もやのうすく棚引く田の面には
神秘な何かをさゝやくやうに
足音の高く低く
かすかな小川のせゝらぎに相和して
遠き日の想ひ出を染めてゆく……
そして
夜のとばりは靜かに
すべてを包んでゆく

筆

佐分利晃

つかれた筆はたゞうつろ
誰が呼ぶのかあの聲は
水のさゝやきか
木の精魂か
そして
獨想は何を呼ぶのだらう
風の分子がこの窓に
遙かな丘阜の
風車の物語を送つて呉れる
つかれた筆はそれを書く

異説赤穂浪士（216）

桃川若燕（講）　城木番

立花の死

立花が軸物を質入れして、その金を大高源吾に注ぎ込んだと知らないから、主人の徹兵衛が女房に、

『いつぞや立花に軸を貸しだが、アレを返して貰つて來なさい』

と云ひつける、そこで女房は立花の部屋へ來ると、

『花魁、いつぞやの掛物、今日旦那が外に見せる人があるからと云ふので催促をされてしまつたんだが……』

『ハイ』

と云つたが軸がないから立花は差俯向いてゐる、

『花魁、どうしたの、さういへば此の二月ばかり見ないね、何處かへやつたのかい』

『ハイ、實は質入れをしましたので手許にございません』

『マア、困つたね。旦那に斷らずに貸したんだから妾叱られてしまふよ。本當に困つた事をしておくれだね』

と女房は澁い顔をして下に降りて斯々と主人に告げる、

『仕様のない奴だな。彼奴は情夫か何かのため質入れしたに違ひない、外の妓達にしめしがつかないから叱言を云つてやらう。茲へ呼べ』

『ハイ』

と女房は立花を呼んで來る、

『オイ立花、仕様のねえ事をしたぢやアないか、あれは些つとやそつとの金で買へるものぢやアないぞ、狩野探幽と云へば容易に手に入らぬ價格の物ぢやアないか』

『旦那、濟みません、年期を増してもようございますからどうか勘忍して下さいまし』

『年期を増せと云つて成程、以前はよく稼いでくれたが近頃ぢやアやれなんだ彼だと云づて店にも出ない』

『マアお前さん、花魁には妾からよく話しをするから妾に任せて置きなさいよ』

と女房が別の部屋へ連れて來て話しを聞くと二十五兩で質入れしてあると云ふ。

『それぢやアわたしが質受けをしてあげるから幾らかづゝでも返すやうにおしなさいよ』

と其處は女だけに優しいところがあつて、女房は早速質受けをして亭主の方の事は濟ました。一方立花は部屋へ歸ると、ホッと溜息をつき、

『良人と定めた源吾さんに死なれた上は生きてゐても何んで樂しみがあらう、お主に仕へて忠義な人その人の後を慕ふは妻の道……』

と覺悟を決めると、その夜は店にも出ず一通の書置を認め、

『冥土にて主にや逢はんうつゝとも夢にもわかず面影にみつ』

と云ふ辭世を殘し、二十歳を一期として床の柱に身をもたせつゝ豫て大高源吾から貰つて内密に藏つておいた短刀で乳下を突き貫き美事な自害をした。傾城に誠なしと云ふが、此の立花の如きは實に立派な女子と云へます後に主人徹兵衛はこれを知つて、

『赤穂の義士大高源吾へ注ぎ込んだ金であつたら、あんな叱言は云はなかつたに……』

と坐ろに哀れを催しその短刀を長く寶物にしたと云ひます。

さて茲で話しは戻り大阪表、御牢内にゐる天野屋利兵衛、松野河内守の情で別段にお調べはなく、來る日、來る日を薄暗い牢内の隅で暮してゐる、といつしか年も變つた元祿十六年二月七日、利兵衛は今では顔色も憔悴し身体も全く衰へてしまつた。

『ア、何時お仕置になると決らないのか、何時まで蛇の生殺しのやうに斯うしてゐるよりいつそ一思ひに殺された方がどんなに樂か知れない』

と遉の利兵衛も近頃は氣が弱くなつてきた

土木建築
鐵道
船舶仲仕
三崎組
事務所 太田勝康
小名濱町日素前
電話五〇番

軍服と國民服
御注文並に既製品
高島屋の洋服
平市二丁目通　電話三六八番

御會食に
御商談に
割烹
幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

内臓外科
整形外科
レントゲン科
松村醫院外科部（平市南町）
松村外科
醫學博士　松村 亨

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三丁
安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生
（電九二五）
福島縣立代用精神病院
内務省指定
郡山腦病院
院長醫學博士　金磯五郎

冷凍魚、鯨肉、ハムソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水産持約
ヒノマル食品店
平市三丁目
電話三三八番

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女縁
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町
鵜沼孝昌

外科
内臓科
肛門病科
皮膚科
泌尿科
生殖器科
（看護婦及見習看護婦募集）
平市鎌田町
白土醫院
電二七九

外科（内臓 整形）
内科
皮膚科
花柳病科
小名濱町仲町
石井醫院
電一八番

口腔衛生
口腔外科
矯正科
鈴木齒科醫院
小名濱町銀座通り

小兒科
内科
◎入院隨時◎
平市南町
酒井醫院
醫學博士　酒井 保
（電五五番）

齒科一般
口腔外科
石城郡草野村驛前
坂本齒科醫院
坂本惣次郎

△入院隨時▽
エッキス光線科
外科
内臓外科
安齋醫院
院長　安齋 徹
平市田町　電五四七

眼科専門
眼鏡檢定
重田眼科醫院
平驛前

曳前の御知らせ
漁船家屋其他動産の移動
土木建築請負
鐵道船舶
仲仕請負
北村芳藏
小名濱町榮町築港地内
御希望の方は一應御相談下さい

ガソリン
キカイ油
石油
輕油
測量器
製圖器
マス
ハカリ
モノサシ
平石油共同配給所
關内正一商店
平市・電話16

乘合
貸切
馬車御案内
乘合區間平、夏井間（平發午前七時 午前九時、午後一時、午後四時の四回）
貸切馬車
は新体制下に於ける乘り心地よき快適な仕立
運行は朝の六時から夜間は十時まで
料金市内七十五錢、市外四キロ二圓五十錢一キロを增す每に一圓增
大河原トラック部
同　乘合馬車部
平市大町　電五七六

男女助手
徒弟募集
（委細面談）
理髪タイヨー
小名濱町登記所前

國民擧つて防火塗裝を！
■危險に曝露する木造家屋
■手輕るに出來る防火家屋
■コロイド防火塗料の特長
專賣特許　太陽無機コロイド販賣店
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り　電話二六二番地

高級林檎酒
ミユキ
釀造元　青森縣弘前市　株式會社　御幸商會
福島茨城販賣元　石井德重商店
久ノ濱町　電話三二番

フタバ磁氣療院
[illegible]

ダイコクヤニユース
夏の訪れ
パナマ帽と
ムギワラ帽子
パナマ　1・60ヨリ…20圓
ムギワラ　1・00ヨリ…3・80
ヤング　1・20ヨリ…3・50
夏學生服陳列
夏の子供服陳列
夏の家庭服陳列
ブラースとワイシャツ
平市　大黒屋

女車掌募集
未經驗者を希む
【經驗者も可。本人御來談乞ふ】
三井自動車商會
平市二丁目　電話685番

小名、玉川合併問題で
縣も意志表示
近く諮問發し、合併を促進か

小名濱玉川兩町村の合併問題に關し縣當局は靜觀的態度を持し、反對運動の動向に注目を拂ひ調査を進めてゐたが、愈々最後の斷を以て臨むことになり山上庶務課長並に相田主任屬を玉川村へ派遣、縣當局の合併意見を傳へたので近日中に兩町村へ諮問案を發し、回答を俟つて縣參事會へ附議、内務省へ申請することになつた玉川村一部の反對も縣當局の意志表示に依つて相當軟化した模樣にあり、小名濱、玉川の合併は時期の問題を殘すのみとなつた

縣當局の說得徹底し
反對運動も緩和

五日午後二時半頃來村した山上庶務課長、相田屬外一名は村會議員區長、常會長等を招等招集した處、各部落の反對村民百余名役場へ參集した爲縣側では一同を國民學校講堂に招致、山上課長、相田屬から一同に對し

小名濱と玉川の合併は大局的に見て合併必至の狀態にあり、縣としても大いに慫慂合併させるつもりである、玉川村側に取つても、あらゆる角度から見て合併に依る不利益は無い、私達は縣の意嚮を訴へに來たのである

と合併に對する縣當局の態度を明かにし、引續き村會議員、區長、常會長等の村の代表者と役場樓上に會見懇談會を開き意見の交換を行つたが反對の理由として擧げられたものは

小名濱と合併すると稅金が高くなる

玉川村は合併しなくも純農村として充分やつて行けるから合併の必要を認めない

と云ふ程度でこれに對し縣側から納得の行くやう合併の必要性を諄々と說明し午後六時頃散會、縣當局の確乎たる意見を明示された爲一部の反對運動も相當緩和された模樣である

決潰護岸
損害五萬圓

昨六日午前十時頃より風浪高まつた小名濱港は俄然正午過ぎ町營魚市場岸壁約二十メータ決潰し非常サイレンに警防團は總出動し彌縫對策に風雨と激浪を犯し土俵松生木等を決潰個所に封じ警戒に努めたが尙ほ危險個所があつたので夕刻迄警戒に當つた

損害は決潰と地盤陷沒等で約五方圓と見てゐる

豪雨の被害
内鄕村は最も激甚

豫想外に激しかつた水害の内でも内鄕村は最も酷く綴地内國道は約三尺冠水し附近民家の床上四百戶、同床下二百戶浸水、平市内は仲間町床下三十戶、長橋町五十戶が同樣浸水し一時平市を中心とする各方面の交通網は杜絕したがその後平署へ報告になつた被害狀況は次の通り

江名町大字中の作字折戶澤田正吉氏所有の中の作港約一千米沖合に定置してあつた漁網が流失し損害約二萬圓、また内鄕村宮地内縣道が出水のため二十間崩壞した

一方農作物の被害は田畑が冠水したため相當被害あるらしく目下郡農で各地と連絡、調査を進めてゐる

怒濤に飛込み
漁船を救援
濱の勇士等殊勳甲

昨六日の時化中小名濱港内に繫船して居つた機船底曳神洋丸（永山辰之助氏所有）重運丸（竹中重郎所有）勇丸（田島熊次郎所有）は激浪の爲め木葉の如く翻弄され危險は刻一刻と迫り小舟の連絡も絕たれ、只茫然自失の狀態で眺める外なかつたが海の勇士オシケ事小野武一郎、濤次郎、武士の親子と力印の船頭小野春吉、金太郎の船頭芳賀福彌、酢屋の船頭小松元吉の諸氏は怒濤渦巻く海中に飛込み身を以て船との連絡に當り碇の豫備綱を渡し船体の無難を完したが、見るからに物凄き怒濤の渦に飛込み命掛けの作業する船頭達の働きは利害拔きの職域奉公であり銃後に於ける殊勳甲として推賞の的とされてゐる

前線慰問通信
☆★★☆★【13】☆★☆★☆★

自動車のパンクで
鄕土兵に遇ふ

漢水のほとりにて

縣議　木村守江氏

十四日

午前八時出發宜昌に向ふ、この日も曇天で内地の季候より少し寒い位である雨あがりの支那の道路は内地人の想像以上のものである。この中を兵隊が七名、宮城慰問團十名、從軍畫家神谷氏と小生等三名を乘せた「トラック」は右にすべり左に曲つて乘客をはらはらさせながら前進する、二時間半でやつと八里の道を走り、長湖の邊に着いた時到頭パンクしてしまつた乘客一同がつかりしたが仕方がない。こゝから約五百米もあらうかと思ふ所に長湖に面して部落がある日本軍のゐるのが見える、どうせパンク修理に一時間位はかゝるとのことと故兵隊さんを慰問すべく泥道を歩いて行つた來て見れば鄕土兵隊の多い〇〇隊である、喜ろこんで尙ほ千米位ある本部に行き隊長に會つた、隊長は現地に來て二年八ヶ月慰問使に來てもらつたのはこれが始めてであるといつて喜ぶ、直ぐ歸る筈であつたのが晝食をと云はれて歸るわけにも行かず御馳走になることにした、その中に鄕土の兵が集つて來る、こゝで會つた兵隊は次の如くである。

佐藤延太郎（四倉）大和田力（同）川原吹英雄（山田村）片寄勳（夏井村）佐々木丈夫（上遠野村）佐藤忠望（下小川村）鈴木智德（玉川村）鈴木次雄（湯本町）鈴木尙義（内鄕村）根本一司（廣野村）松崎美松（赤井村）矢吹源次（平市）渡邊宏（夏井村）川見重雄（原町）横田比農夫（川内村）

の諸君である

約二時間程鄕土の話をして民報佐々木氏の記念撮影が終る、この部隊は最初南支攻略に參加し廣東、南寧間で奮戰して軍司令官より感狀をもらつた有名な〇〇〇隊であるが、その勤務振りと勇敢なる戰斗振りは〇〇部隊と同樣である、約一年程前からこの地方に來て第一線警備の傍ら沙市との物資輸送をやつてゐるとのことで、この運賃丈でも支那人に拂ふ金が一ヶ月一萬七千八百圓に上るとのことである、勿論周圍には殘敵がおり襲擊されることが度々だが支障なく任務を遂行してゐるのでこゝに來てからも感狀を貰つてゐるとのことであつた。然しこの隊の事務室のすぐ前には四十二勇士の墓と書いた大きな墓標がある、その後方には新しい三つの墓標があつた、淚なくしては聞くに耐へぬ奮戰の數々がある、尙ほ隊長の話では宜昌攻略當時は米が全然なく四五日間は小麥粉や唐黍の粉などで空腹を凌いでゐたとのことである、この地方から西北方一帶の地は全く米の取れないところで全く困つたこともあつたと述懷してゐた。

午後二時頃こゝから鄕土の兵隊と分れてパンク修繕も出來て待つてゐたトラック迄歸り宜昌に向ひ出發した。

約二時間半程にて拾廻橋に至り鄕土部隊の歸還兵に會ふ。何れも立派に御奉公を終り歸還出來ること何故ともいへぬ喜ばしさが表れて元氣よい。

朝からの曇天は晴れようともせぬ、時々雨が降つて來るので惡路は續く、程なく沮河の畔に着く、この河は支那では珍らしく河原に砂利がある、從つて極めて清流である、盛んに砂利採取をしてゐた河浴鎭を過ぎ當陽に到着したのは午後八時であつた。

こゝには中支那第一の伽藍といはれる玉泉寺があるので有名である、日本の昔の高僧もこの寺に來たものが多い、又支那に於ける武の神として祭られてある關羽の廟のあるので有名である、日本に於ける八幡神社の如きもので極めて宏壯な建築の物がある、この地は本當の關羽の死体を埋めたるところで大きな墓場もあり忠義參天漢將軍漢壽亭侯之墓と書いてある、又その拜殿とも申すべきところには忠義神武靈佑仁勇威顯關聖大帝漢前將軍漢壽亭侯墓道とあり扁額には靈威永宅、代天行化などあり忠勇義烈滿腔忠義と書いてあるも面白い、關羽はこの地方即ち河洋鎭から西方一帶の地の大名であつたとのことである。又長坂公園といふ極めて悠大な見晴しのよい地がありこゝに登ればこの地方一目瞭然である。

福榮丸無事
捜査船が曳航して歸る

【昨報】小名濱町竹中茂、堀越竹治共同經營のハモ繩漁船福榮丸（十二トン）は船頭竹中義雄外五名が乘込み五日夕刻出漁し昨六日朝歸港の豫定であつたのが歸らず、風浪は益々加はつたので船体の遭難を氣遣はれ、磐城丸第二東日本丸、丸高丸等が捜査の爲め時化を犯して沖合に出動したが漸く三時頃に至り無事の福榮丸を拖して歸港についたが浪高く入港出來ず沖合に待機して居り夕刻無事入港したが一時は安否を氣遣れて大騷ぎであつた

降雨量　坪當り二石一斗
農作物に試驗場が注意

別項、五日夕刻より六日午後まで降續いた豪雨は坪當り二石一斗四升六合余で增產の折柄農作物の被害が憂慮されてゐたが冠水時間が割合尠なかつたため平地方の苗代は大した被害ない模樣、尙ほ冠水した田畠の取扱ひに付いて農事試驗場では次の如く注意してゐる

先づ苗代は冠水のため病害の惧れあるからボルド液を散布する、また大麥は刈取り期が切迫してゐるから倒れても大したことはないが小麥は出來るだけ繩を使つて立直す方が良い、馬鈴薯も大したことはないと思ふが藥劑を使用して病害豫防をする、一方畠地は即効性の人糞を使用すると効果あると思ひますが全体的に見て幾分の減產は免れませんが農作物には大して影響ないと思ひます

酒井家の
崖崩潰
一時交通に支障

平市八幡小路酒井秀次郎氏宅東側の崖が六日午前十時頃折柄の豪雨中赤井街道に面し十五六間地辷り崩潰し、縣道へ土砂や櫻樹など崩れ一時車馬の交通を妨碍された

按摩さんの
銃後奉公
稼ぎの一部獻金

盲目で按摩を業とする氣の毒な立場にありながら非常時邦家の一員として銃後に協力しなければならぬと、時間外の按摩料金を積立てた金五圓を組合長小野國一氏が代表として町役場を訪れ銃後奉公會に寄附したが、趣意書を代証人に書かしての寄附丈けに役場吏員の襟を正さしめた

乾草馬糧增產
一戶二百五十貫目標
飼料栽培も指導

石城產馬畜產組合では縣の指令で今年は特に乾草馬糧の增產に邁進すべく近くこの計畫を具体化することに成つた

乾草の刈取りは勞力のゆるす範圍内で出來るだけ榮養價値のある若葉を狙つてるが一頭に對し百五十貫以上を目標にしてゐる、昨年は僅かに川前村並に上遠野村の一部が縣產馬畜產組合聯合會主催の增產競進會に參加、最高一戶當り千五十貫、平均二百五十貫の好成績であつたので今年は更に各市町村にこの指導員を擢き愈々本格的に行ふことになつたが一方同指導員を中心に更に飼料作物の栽培も實施する計畫である

機構變革に備へ
區内會長全部常會委員に任命
四市會議提案の趣旨

十日福島市に開かれる縣内四市翼贊支部協議會提出事を項協議する臨時常務委員會は昨六日午後一時から市長室に開き

一、標準國民食の普及徹底に關する件

一、市常務委員增員の件

の二件を提案、出席者は左の五常務委員が出席する

青沼支部長、大森、關内、猪狩、野崎、

常會委員增員の件は各地とも問題に成つて居り、當初の翼贊會は下意上通、上意下達を目的とし市常會の決議事項を市會へ反映せしむることが大きい目的として委員を選任しる爲市常會も市會議員を中心として編成された嫌ありこの爲區内會長にして委員ならざるもの廿余名あり最近に至つて翼贊會の機構に相當變化を來し市常會は區内會を指導する如き機關となつた爲尠なからず不便を招來、市常會と隣組の連絡上區内會長全員を委員にする必要を認め今回四市の會合へ提案、縣支部へ意見を具申する譯で增員は認められる模樣である

尙平市常會現在の委員は市會議員、區内會長等各職能代表、五十名から成り、今度增員されると七十余名に上る

翼贊會で取上げた
舊藩主歸住問題
安藤子をめぐり文協も乘出す

大政翼贊會第一回中央協力會議に提出された議案二百廿一件は運營委員會に於てその具体的取扱法を審議中であるが、その中に菊池寛氏の提出した議題『舊藩主その他有力者の出身地歸住』が地方文化の問題と連關して各方面から注目されてゐるに舊藩主の別邸のない平地方は舊藩主安藤子爵との間の關係が持に稀薄なので、この際地方民との關係を緊密ならしむべきであるとの聲もあるが、青沼市長諸橋貴族院議員等も平に舊藩主の別邸のないことを深く遺憾としてゐる。しかし何分にも別邸問題は費用を多く要することでもあり早急に實現する見込もないので他に何等かの方法で連絡を密ならしむ

隣組指導に
紙芝居利用
市翼贊會で貸出待機

翼贊會平支部では隣組の指導教化に『紙芝居』を利用することになり『仲よし五人組』『白君慰問隊』『大政翼贊會』『隣組』『ラッパ貯金』『進軍歌』『裏店銀行』等題本七種購入備へつけ、申込みに應じて何時でも貸出すことになつた

中にも『裏店銀行』はレコードの伴奏入りで說明のいらないものなどあり、移動舞台も警察署にあるやうな大型では持運びに不便を來すと柳沼主任苦心の結果『簡易板』を作製し簡單に持運べるやうにした、この費用がタタ三十五錢也、隣組は常會每に利用するやう奬めてゐる

兒童用の
運動靴
學校別配給決定

市内國民學校第三、四回ゴム底布靴の配給は現物が到着したので近く次の割當で配給する

△第一校四百四十八足△第二校四百四十足△第三校三百八十七足△第四校二百二足

女教員講習
第三校に開く

縣主催女教員講習會は明八日より四日間平第三國民學校講堂に開くが受講者は石城、平の女教員約百二十名で講師は力丸視學外三名である

石油共販
重役會
あす給油所視察

縣石油共同販賣會社の重役會は明八日午後四時から平市關彰支店に開かれるが、會議に先立ち同日午前中重役一行は小名濱、江名濱等の給油場を視察する

『大將の母』
第三校で觀覽

平第三國民學校では今七日午前中驛前世界舘で上映中の『大將の母』を觀覽した

平青壯年隊
漸次機構を整備
隊旗は統一か

平市青壯年隊は過般結成式を擧げ翼贊運動中核体として活動することに成つたが未だ基礎を爲す各分隊の機構が整はない爲これが整備を俟つて本隊の各部長幹事等も選任し青壯年隊今後の事業等も決めることになる

尙過般開かれた翼贊會指導員協議會席上平市から出席した長谷川學務課長の提案に依り、隊旗（分隊旗を含む）及腕章は縣内を統一することに內定、各分隊共この趣旨を体し當分の間隊旗作製を控へるやう注意を發することになつた、服裝は特に指定せず、努めて現在のもので間に合せることを强調されてゐる

闇に蠢動する
時局の背德者一網打盡
惡の根を斷つ

平署では昨六日午前五時を期し折柄の豪雨をついて全署員を動員、管内常習賭博、惡質ブローカー、暴力行爲者時局詐欺、不良青少年を一網打盡に約八十名を檢擧、同署武德殿に留置、嚴重取調べを開始したが殊に常習賭博者の取調べにより相當廣範圍に及ぶものと見られ同署では時を移さず更に芋蔓式に檢擧する方針であると

今度の檢擧は時局を辨へず怠惰をむさぼり、賭博に耽つてゐるものや時局を逆用して闇に踊る惡質ブローカー、暴力行爲の常習者などを一掃する目的で縣下一齊に行なはれたもので檢擧した八十余名は嚴重取調べた上惡の根を斷つ方針のやうである

國民校長會
廿八日公會堂に

縣主催濱三郡並に平市國民學校及び青年學校々長會議は約百名が參集二十八日平市公會堂に開くことになつた

保健所視察

厚生科學研究所々長林春男博士は九日午後三時來平、平保健所を視察する

○。○。○。

青沼所長出席

平保健所青沼所長は十三日より十五日まで厚生科學研究所に開かれる東北六縣國民健康保險事業關係醫者及び衛生技術者講習會に出席する

梅雨期と
傳染病
果物の食料に注意

平市では一日よりお米が更に規正强化されたのでこの代用食にこれから出廻る果實その他を求める傾向があるので梅雨期の傳染病に特に注意するやう今七日市内各區内會長へ通牒を發した

度量衡總會
今日谷口樓に開く

縣度量衡商業組合石城支部總會は今七日午後一時から平市谷口樓に開き、本年度豫算及決算を審議決定する

隔離又一名
赤痢で收容さる

平市鷹匠町郡司ウメさん（二九）は今七日赤痢と決定隔離病舍に入院したがこれで傳染病患者六名である

四倉町の
軍手と手拭配給

四倉町役場では五月分の手拭並に軍手等の配給を十五日頃行なふ筈であるが手拭は約七百本位、軍手は五、六の二ヶ月分で五百人分配給する

商報青年隊
每週詩吟會開く

四倉商業報國青年隊では詩吟會を每土曜日に午後七時半より國民學校に開く事になつたが講師として大野校長鈴木謙四郎氏が指導に當ることになり目下會員約三十名に達してゐる

健康報國日
草野校齒磨訓練

草野村國民學校では每水曜日を健康報國日と定め一千名の兒童に對し齒磨教練を行つてゐるが講師の齒科校醫坂本惣次郎氏が一千名の兒童に齒ブラシとコップを用意させ齒磨、ウガヒ、咀嚼等の訓練を行なつてゐる

平市慶弔錄

【出生】△平市南町五十二番地永井寅雄三女洋子さん△平市南町三十一番地佐藤竹雄二男光男さん

舊五月十四日　新六月八日　日曜　丁亥　赤口　執　昴宿

▲一白　人を侮り己を誇りて排斥せらるゝことあり
▲二黑　無理も通り利得さへ加はるべき日奮闘に吉
▲三碧　智慮を廻らし腕を振ひて大に發展を來す日
▲四綠　才德衆に認められ用ゐらるゝ所大なるべし
▲五黃　運氣良好に志望遂行す但し投機に耽れば凶
▲六白　拔け目無く立廻らざれば意外の邊に敗あり
▲七赤　幸福を望まば德を積み仁を施す心懸が肝要
▲八白　計畫追々と順調に運ぶ日普請造作談商不利
▲九紫　燃え立つ心を打消して萬事差控ゆるが安全

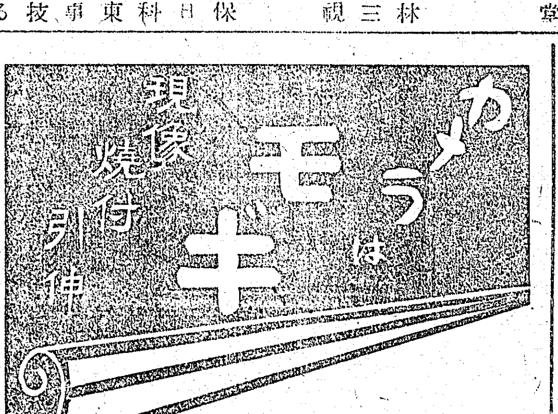
天氣豫報

今晩　北の風後曇り雨模樣
明日　西の風後南東の風晴後曇り模樣

（六月八日）
滿潮　前二、〇〇　後四、一〇
干潮　前九、三五　後九、三五

文選女工見習募集
高卒程度
年齡十五、六才
【希望者ハ本人來社アレ】
磐城毎日新聞社

三井生命
三井生命保險株式會社
代理店　久　釜屋商店保險部
振替東京七〇四五
電話九九番



カメラ
賣買
交換
平市[illegible]通り
茂木カメラ店